

小川定明 (きかわ せいめい) 新聞記者。安政二年二月十日江戸(麹町)尾張藩家(生れ、大正八年一月二日歿)(八差一(九一九))。舊名青山庄之助、名倉庄之助。筆名古磨坊、小川懋徳。明治九年小川許信の養子。十四年『吹中新報』、十九年『中外電報』記者を経て、二十五年『大阪毎日新聞』に轉じた。二十七年日清戦争の従軍記者となり「従軍日記」を本紙に掲載。二十九年臺灣従軍、歸朝後「臺灣の真相」を執筆して反響を得た。その後米西戦争、北清戦争を取材、奇行と今日の各報記者として名を擧げた。二十五年退社して『大阪新報』に入社、日露戦争に従軍したが、爾後報界を去り、千葉で旅館の下男、北海で、(渡)小樽で孤兒院の用務員をするなどしてゐた。この期間の著書『新聞記者腕競』(大正六年一月十五日須原啓銅社)を出版。

佐藤清彦著『奇人・小川定明の生涯』(平成五年一月一日朝日新聞社「朝日文庫」)があり、前記「臺灣の真相」の抜粋を附載してゐる。

